Auge Access Watcher for Lotus Notes　ログフォーマット＆サイズ仕様

Seq	ログ取得項目	ログ出力例	データ長	内容	バイト長最小	バイト長最大	一般的な	補足
1	ログ発生日時	2007-11-26T16:25:36	固定	yyyy-MM-ddThh:mm:ss	19	19	19	ログが発生した時点のOS時刻です。精度はOS依存
2	サーバー名	CN=Server/OU=svr/O=ABC	可変	最大256+32+1	0	256	64	AccessWatcherが稼動しているDominoサーバーの完全名です。
3	ログ発生プロセス名	nserver	可変	-	4	32	7	【Windows】 ノーツクライアントの監視の場合「nSERVER」、Webクライアントの監視の場合「nHTTP」になります。（Domino環境により大文字小文字が混在する場合があります） 【AIX】 ノーツクライアントの監視の場合「server」、Webクライアントの監視の場合「http」になります。（Domino環境により大文字小文字が混在する場合があります）
4	Extention Manager イベント名	EM_NSFNOTEOPENEXTENDED	選択	EM_NSFNOTEOPENEXTENDED EM_NSFNOTEUPDATE EM_NSFNOTEUPDATEXTENDED EM_NSFNOTEDELETE	14	23	23	Dominoのログ取得機構から通知されるNotesのアクション名がセットされます。
5	NotesAPI動作	READ	選択	READ CREATE UPDATE DELETE	4	6	6	※EM_NSFNOTEOPENEXTENDED時は常にREADとなります。 ※EM_NSFNOTEUPDATE、EM_NSFNOTEUPDATEXTENDED時は、 その内容によってCREATE,UPDATE、DELETEのいずれかが設定されます。 ※EM_NSFNOTEDELETE時は常にDELETEとなります（通常の削除動作では、EM_NSFNOTEDELETEは通知されません。 EM_NSFNOTEUPDATEまたはEM_NSFNOTEUPDATEXTENDEDのDELETE動作として通知されます。 これはLotus Dominoの仕様です。
6	Extention Manager FLAG番号	03200040	固定	16進数値	8	8	8	DOMINOのログ取得機構から通知されるAPIコールのサブFLAG番号。 ノーツ文書を開いたり、更新、削除する際に、どのようにその動作を実行するかこの番号で規定しています。 例えば文書を削除する時は、EM_NSANOTEUPDATEXTENDED動作が通知され、FLAG番号は0x00008xxx として通知されます。 このFLAG番号は、Dominoの内部仕様です。
7	アクセスユーザー名	CN=ichiro suzuki/OU=sales/O=ABC corp	可変	最大256+32+1	0	289	64	ノーツユーザーカノニカル名がセットされます
8	アクセスデータベース　レプリカID	4925739F00265BBC	固定	16桁の16進数	16	16	16	ノーツデーターベースのレプリカIDが16進でセットされます
9	アクセスデータベース 物理ファイルパス名	Sales¥出品一覧.nsf	可変	最大256バイト	0	256	64	Dominoサーバーのデータディレクトリからの相対パスがセットされます。
10	アクセスデータベース タイトル名	出品一覧データベース	可変	最大256バイト	0	256	32	ノーツデータベースのタイトル名がセットされます
11	アクセスノーツ文書 ドキュメントUNID	00D51E36B32675BE4925739F002668D5	固定	32桁の16進数	32	32	32	Notes文書を特定するDocumentUNID。Notes文書のプロパティから確認可能。
12	アクセスノーツ文書 シーケンス番号	00000001	固定	8桁の16進数	8	8	8	サーバー上のNotesデータベースで、Notes文書の更新が行われた際に増えるID。 （ただし、レプリカ間の整合性などにより、必ずしも更新回数を一意に示すものではない） Notes文書のプロパティから確認可能。
13	アクセスノーツ文書 文書タイプ	DOCUMENT	選択	DOCUMENT UNKNOWN	7	8	8	一般のログはDOCUMENTが返却されます。エラー発生時、UNKNOWNが返却される場合があります。
14	アクセスノーツ文書 タイトル値取得用フィールド名	subject	可変	最大65バイト	0	64	32	監視対象データベースリスト設定ファイルにより、設定されたフィールド名（最大3つ）のうち、 実際に対象ノーツ文書からのタイトル値取得に使用されたフィールド名がセットされます。 フィールド名が空になるのは、対象のノーツ文書に設定されたフィールド名が存在していなかったか、 またはそのフィールドタイプが不適格（リッチテキストフィールドなど）であった場合です。
15	アクセスノーツ文書 タイトルフィールド値	製品の出荷日について	可変	最大	0	128	32	監視対象データベースリスト設定ファイルで設定されたフィールド名（最大3つ）のうち、最初に見つかったフィールドの値がセットされます。 セット可能なフィールド値は128バイトに制限しています。128バイトを超えた場合は、該当するフィールド値はセットされません。
		エンクロージャ	固定	ダブルクォーテーション	30	30	30	※タイトルフィールド値等にダブルクオーテーションが含まれる場合は、エスケープ（ダブルクオーテーションが2重化される）されます。
	セパレータ	,（カンマ）	固定	カンマ（14個）	14	14	14	
	改行コード	CR+LF	固定		2	2	2	各ログレコードの最後に付加される
	ログサイズ				**158**	**1447**	**461**	単位：byte

Auge Access Watcher for Lotus Notes　出力ログファイル名称仕様

SEQ	ファイル名称	内容
1	serverCname_nserver_yyyy-MM-dd.log	ノーツクライアント監視の場合
2	serverCname_nhttp_yyyy-MM-dd.log	webクライアント監視の場合
3	serverCname_nserver_yyyy-MM-dd_2.log	ノーツクライアント監視の2ndログファイルの場合
4	serverCname_nhttp_yyyy-MM-dd_2.log	webクライアント監視の2ndログファイル場合
	serverCnameは、サーバーのコモン名（CN=xxx　のxxxの部分です）	
	yyyyは4桁で表される西暦です。（ex.2008）	
	MMは2桁で表される月表記です（ex.01、11、）	
	ddは、2桁で表される日表記です（ex.01,25）	

Copyright 2008, Auge Technology Corporation. All Rights Reserved.